編集ボランティアのページ

●担当編集ボランティア / 日置雅夫・岩下茂子

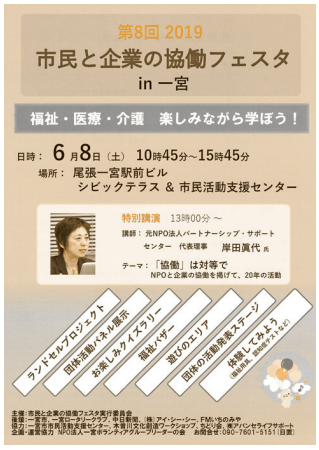
目標を共有し、協力して汗をかく 協働が地域社会を再生する

6月8日土曜日にiビル3階のシビックテラスで「2019市民と企業の協働フェスタin一宮」が開催されました。一宮市と市民、企業との間では、協力や連携がいろいろな形で進んでいます。また、市民によるNPOと企業の協力も進んでいます。それらの啓発活動として、NPOと企業が協力して、できる範囲内でこのイベントを開催しています。第1回は、一宮ロータリークラブが主催し、NPO法人一宮ボランティアグループリーダーの会が運営協力をして、138タワーパークの野外ステージ・イベント広場で行われました。2回目以降は、有志による実行委員会による主催で回を重ねており、今回で8回目の開催となりました。

東日本大震災の時、多くの方々が亡くなり、日本全体が深い悲しみに包まれました。名古屋のNPO法人レスキューストックヤードは、いち早く宮城県七ヶ浜町で被災者のための活動を始め、きずなハウスを設置しました。これにより、「きずな」が人と人をつなぐ言葉として広く浸透しました。

愛知県社会活動推進課は、NPOと協力して、2004年に「NPOと行政の協働ルールブック2004」を策定し、啓発に努めています。一宮市においても地域ふれあい課が市民協働課に名称変更するなど「協働」という言葉が普通に使われるようになりました。

現在の日本では、個人主義が行き渡り、人とのつながりが希薄になり、社会の構成員がバラバラになってきています。そんな中、安心・安全な町として地域社会を再生する上で、地域に住む人々による協働がより重要となってきています。住みよいまちを造るのは、そこに住む私たち自身です。



「協働」は対等で
講師：岸田眞代氏

地域で手話の啓発活動を継続しているグループ『みんなの手』を紹介します

『みんなの手』は、旧尾西市において耳の不自由な方が集まり、聴覚障害者協会を設立したいとの思いから立ち上げられたグループです。一宮市との合併により、メンバーの皆さんは一宮市聴覚障害者協会に加入することになりましたが、グループ活動を無くしたくないとの思いが強くあり、結果、尾西南部公民館を拠点として合併後も活動を続けてきました。

耳の障害や手話について知ってもらいたいという思いから、夏休み企画として『みんなの手』主催としては初めての手話教室が、7月28日(日)と8月25日(日)に開催されました。20名ほどの参加があり、グループメンバーの宮田さんの指導のもと、皆さん楽しそうに手話体験していました。

『みんなの手』の思いが皆さんに伝わることで、聴覚障害の理解が深まる事を期待し、この企画が続いて行って欲しいと思いました。

グループメンバーと受講者

受講者の声・・・
2回では物足りない。もっと開催してほしい。　など